



キャンドル・ナイト2014

クールアース・デーの7月7日に川口西公園で開催。3,000本のキャンドルを見つめながら地球環境の大切さを再確認し、温室効果ガスをできるだけ排出しない低炭素社会の実現を呼びかけました。



KAWAGUCHI PUBLICITY



川口市平和展

7月19日～23日、中央図書館とメディアセブンで開催。「今に伝える戦争と家族の絆」をテーマに戦時下の住まいの再現と家族や子ども遊びに関する展示が行われ、多くの子どもたちがベーゴマなどの昔あそびを体験しました。





拉致されて36年！ 田口八重子さん写真展

6月27日～30日に中央図書館入口で開催。
田口八重子さんが昭和53年6月29日に
拉致されてから36年目となり、拉致問題の
早期解決を訴えました。



市指定無形民俗文化財 安行藤八の獅子舞

6月22日、江戸時代初期から伝わる民俗芸能・安行藤八の獅子舞が行われました。二人立ち一頭舞いの獅子が夏の悪病などをはらうため氏子の家々を巡り、舞を披露しました。



COMMUNITY

マイシティ
かわぐち

MYCITY

ひと・歴史・かわぐち Vol. 19

このコーナーでは「川口宿 鳩ヶ谷宿 日光御成道まつり」に登場した川口ゆかりの人物を紹介していきます。

日本近代彫刻の先駆者

大熊氏広うしひろ

今回は、日本近代彫刻の先駆者として、高い評価を得ている大熊氏広を紹介します。

大熊氏広は、明治から昭和の初めにかけて活躍した彫刻家で、安政3年（1856）に足立郡中居村（現・川口市八幡木）で生まれました。大熊家は農業を営む一方で、学問・芸術にゆかりの深い家柄でした。そうした家庭環境の中で、少年時代から絵画を好み、光琳派の日本画を学んだと伝えられています。

明治9年（1876）に、日

本で初めての国立の美術学校として工部美術学校が開設されると、第1期生として彫刻科に入學し、イタリアの彫刻家ラゲールから西洋彫刻を学びました。成績は常にトップクラスで、在学中の明治13年（1880）には彫刻科助手に任命され、明治15年（1882）に首席で卒業しました。その後、明治21年（1888）から1年間、ヨーロッパに留學し、さらに研さんを重ねました。

帰国後は、日本を代表する彫刻家として活躍し、肖像彫刻を中心に約100点以上にのぼる作品を残しました。

中でも、明治26年（1893）



有栖川宮熾仁親王像

川口市立文化財センター分館・郷土資料館3階には、専用の展示室が設けられ、氏広の偉業の足跡を見学できます。

鳩ヶ谷本町2ノ1ノ22